

## モデル施設数から見た量の見込みと確保策の検討

### 1. 検討の目的、進め方

#### (1) 検討の目的

- ・ 確保の内容の検討を踏まえ、確保する量の妥当性について、確認する。
- ・ 確保する量を踏まえ、量の見込みの補正について、確認する。

#### (2) 確保の内容の検討の視点

- 1) 推計によると余剰となる北部の保育園について、どのように考えるか。
  - ・ 北部3号：1～2歳
  - ・ 北部2号：3～5歳
- 2) 増やす必要がある幼稚園について、どのように考えるか。（既存園の定員増で対応可能か。）
  - ・ 北部1+2号（幼）：3～5歳
  - ・ 南部1+2号（幼）：3～5歳
- 3) 増やす必要がある保育園について、どのように考えるか。
  - ・ 北部3号：0歳
  - ・ 南部3号：0歳
  - ・ 南部3号：1～2歳
  - ・ 南部2号：3～5歳
- 4) 増やす保育園について、施設型（保育園など）と地域型（小規模保育園など4事業）の選択にあたって配慮するとよい点はあるか。
- 5) 認定こども園ことについて、配慮するとよい点はあるか。

### 2. モデル施設の設定

対象：幼稚園、認定こども園、保育園

年齢	定員（仮定）	年齢区分の定員
0歳	10名	10名
1歳	15名	30名
2歳	15名	
3歳	20名	60名
4歳	20名	
5歳	20名	

### 3. 平成 26 年度実績との過不足数から推計した増やす必要がある施設数

- ・確保の内容を具体的にイメージして検討できるよう、モデル施設として設定した定員をもとに各年齢ごとに増やす必要がある施設を算出しました。（端数切り捨て）
- ・平成 26 年度の施設数に対して増やすべき施設数を示しています。

（H27：6→H28：24 の場合、H28 には 24-6=18 施設増やす必要あり）

- ・確保の内容の検討素材として算出したものであり、区の方針として検討しているものではありません。

年齢	定員	区分定
0歳	10名	10名
1歳	15名	30名
2歳	15名	
3歳	20名	60名
4歳	20名	
5歳	20名	

#### ■増やすべき施設数(モデル施設の仮定員による)

認定	対象	内 訳	実績値(施設数)		増やすべき施設数					
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	
3号認定	保育園 認定 こども園	0歳	計	31	32	5	10	16	21	23
			北部	21	21	2	4	6	8	7
		1～2歳	計	10	11	3	6	10	13	16
			北部	45	46	0	3	7	5	7
		3～5歳	計	28	28	-3	-3	-2	-3	-2
			北部	17	18	3	6	9	8	9
2号認定		3～5歳	計	43	44	-1	3	7	10	10
			北部	27	27	-4	-3	-3	-3	-3
			南部	16	17	3	6	10	13	13
1号+2	幼稚園 認定 こども園	3～5歳	計	15	15	2	4	7	9	9
			北部	9	9	1	2	4	5	5
			南部	6	6	1	2	3	4	4

	実績値(施設数)		増やすべき施設数				
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
総計 各区分の最大値(モデル施設として増やすべき施設数)	—	—	5	10	16	21	23
3号0歳計	31	32	5	10	16	21	23
3号1～2歳計	45	46	0	3	7	5	7
3～5歳計	—	—	1	7	14	19	19
2号3～5歳計	43	44	-1	3	7	10	10
1+2号(幼)3～5歳計	15	15	2	4	7	9	9
北部 各区分の最大値(モデル施設として増やすべき施設数)	—	—	2	4	6	8	7
3号0歳北部	21	21	2	4	6	8	7
3号1～2歳北部	28	28	-3	-3	-2	-3	-2
3～5歳計	36	36	-3	-1	1	2	2
2号3～5歳計	27	27	-4	-3	-3	-3	-3
1+2号(幼)3～5歳計	9	9	1	2	4	5	5
南部 各区分の最大値(モデル施設として増やすべき施設数)	—	—	4	8	13	17	17
3号0歳南部	10	11	3	6	10	13	16
3号1～2歳南部	17	18	3	6	9	8	9
3～5歳計	22	23	4	8	13	17	17
2号3～5歳計	16	17	3	6	10	13	13
1+2号(幼)3～5歳計	6	6	1	2	3	4	4

#### ●教育・保育の確保のひとつの考え方（平成 31 年までに確保） ※検討

